

《 蚕 の 飼 育 》



息を吹きかけたら飛んでしまうよ。そっと見ようね。

はじめは 1 ミリもない小さな白い卵が、孵化する間際になると、少しずつ黒くなって、蚕が生まれてきます。



蚕が生まれると、たまごは空になり、また白色になります。



蚕が小さいときは、手で触れると火傷をして死んでしまうので、餌やりはスプーンを使っています。

はじめは、桑の葉で作られた人工飼料の餌を毎日あげます。





「食べやすいように、枝から一枚ずつはずしておくよ。」と、蚕の気持ちを考えて、みんなで取り組んでいます。



園庭の桑の木の葉を取って餌やりをします。「よく食べるからいっぱい取ろう」と、毎日蚕の世話をしています。



桑の葉を食べる様子を静かに見ていると、「シャクシャク」と葉を食べる音が聞こえてきます。



日に日に蚕にいたわりの気持ちが芽生え、友達と協力して育てることを喜び、充実感を味わっています。



食欲旺盛な蚕は、茎だけを残し葉を全部食べることを繰り返し、脱皮しながら成長します。



蚕の成長過程や調べた情報教材を大型テレビに映して、確かめ合ったり、飼育に活かしたりします。(情報教育)



蚕を育てる道具の「まぶし」についての話を聞いて、昔から伝わる伝統文化にも興味や関心を広げています。(世界遺産学習)



地域の西田さんが、蚕についての話をたくさん聞かせてくださいました。



うちの枠組みを入れるとどうなるか、みんなで見届けることになりました。

手づくりの「牛乳パックまぶし」にも、たくさん繭をつくりました。

蚕の口から出る、一本の細い絹糸が幾重にも重なり、うちわに薄い膜が張られていきました。その様子をじっと見守る子ども達の姿から、心から応援する気持ちが伝わってきました。



繭から孵った成虫は、餌を食べることなく、子孫だけを残し、命は繋がっていきます。

うちわに、薄い膜が張り、絹糸のうちわができました。



孵る間際のサナギ

「うちわ」と「おりん（絹綿で作成）」は、1月の園外保育（喜光寺初詣）